

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-1

1

言語研究法 ('19) 第13回 意味論②

意味の諸相

(＜第20講＞ & ＜第21講＞)

2

今回のポイント

- 選択制限とコロケーション
 - 文をつくる → 単語同士の結びつきの可否
 - 結びつきの変化 → 言語の変化
- 比喻
 - 比喻の種類・仕組み
 - 比喻の意味論
- 文の意味
 - 「真理条件」という考え方

3

選択制限とコロケーション (1)

- 語の意味から文の意味へ (の一步)
 - 基本的に単語は他の単語と結びついた文中で使われる
- 選択制限
 - 述語動詞の項になれる語には制約 (共起制限) があるという現象
- コロケーション (連語関係)
 - 語と語の結びつきが自然であると感じられる組み合わせがコロケーション

4

選択制限とコロケーション (2)

- 選択制限
 - <例> 「なく」の項になれるのは生き物 → [+有生性]
- コロケーション
 - <例> 帽子をかぶる, 靴を履く; チケットをとる
 - ・ 意味解釈に大きく寄与
 - <例> 「あがる」
 - 「に／から／を／が上がる」のコロケーションが意味解釈の大きな手がかりに

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-1

5

意味の変化：「普通に」

■意味が変化するとき、コロケーションも変化する

<例>「普通に」の意味拡張

- (1) 「吹雪の日でも普通に学校へ行ってた。」
- (2) 「あの動物園に行けばペンギンが普通に见られる。」
- (3) 「雷の音が大きくてふつうに怖い。」
- (4) 「このアイス、ふつうに美味しいから食べてみて！」
- (5) 「日曜に新宿行ったら、ふつうに友だちとご飯食べる。」
- (6) 「そんなこと言われたら誰だってふつうに怒る。」

6

従来型「普通に」

- (1) 「吹雪の日でも普通に学校へ行ってた。」
- (2) 「あの動物園に行けばペンギンが普通に见られる。」

➤ (1)は“いつもと変わらず・普段どおりに”

(2)は“いつでも”“普段から”

➤ 従来型は“これまでと特段の変更なく”の意

7

新用法「普通に」 (1)

- (3) 「雷の音が大きくてふつうに怖い。」
- (4) 「このアイス、ふつうに美味しいから食べてみて！」

➤ [ふつうに+(傾きのある)程度性]

← 従来なら許されないコロケーション

➤ 程度性そのものではなく“評価基準がふつう”だ

→ 意味としては、“十分・それなりに”“かなり”

8

新用法「普通に」 (2)

- (5) 「日曜に新宿行ったら、ふつうに友だちとご飯食べる。」
- (6) 「そんなこと言われたら誰だってふつうに怒る。」

➤ 従来型(1)と似ているが、後接部が“いつも・普段”を含意する内容ではない

➤ “行動や判断に特別な点がない”

→ 意味としては、“当然 (のように)”

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-1

9

(参照論文)

➤ 「普通に」の意味拡張

四谷厚子

「現在進行中の意味拡張に関する実証的研究

ー『普通(に)／大丈夫／痛い／やばい』の意味理解と
自然性判定に着目してー」

放送大学2015年度修士論文

5

10

15

20

25

30

35

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-2

10

比喩の意味論

■比喩とは？ 比喩の種類

表したいモノ・コトを、それと何らかのつながりがある別のモノ・コトに置き換えて表現する手法

表すものと表されるものの関係で種類が分かれる

- ・隠喩 <例> 「彼女はずっと王子様を待っている」
- ・直喩 <例> 「彼の話はいつも落語みたいだ」
- ・換喩 <例> 「泥棒〜！ あのメガネ、捕まえて〜！」
- ・提喩 <例> 「目頭から熱いものがあふれた」

11

比喩の仕組み：隠喩

■隠喩

「王子様」：地位、財力、容姿、etc.

表すものと表されるものの間に見立てられる類似性



彼女は“地位や財力があって容姿のいい相手”を待っている

12

比喩の仕組み：直喩

■直喩

「…ようだ（な）」「…みたい」 = 直喩標識

（“これは比喩だ”“似ている”という印）

→ 表すものと表されるものの間に見立てられる類似性

「落語」：リズム・テンポ・笑い、オチ



彼の話は“リズムやテンポがよくて面白い”

13

比喩の仕組み：換喩

■換喩

「メガネ」：メガネをかけた（が目印の）人

何かの部分と全体、容器と内容、手段と結果、の関係
（隣接性）



あの“メガネをかけた人”を捕まえて！

★なんだ、それだけ？？

第13回 意味論② 13-2

14

比喻の仕組み：提喻

■提喻

「熱いもの」：目頭を熱くするもの、な～んだ？

—— 涙。

“熱いもの” のカテゴリー／“涙” というメンバー

カテゴリーとメンバーの上下（包摂）関係



目頭から“涙”があふれた

5

10

15

20

25

30

35

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-3

15

隠喩の解釈とカテゴリー

■カテゴリー的に解釈される隠喩

<例1> 君は僕の太陽だ。

主語「君」 = [+人間] , 述語「太陽」 = [-人間]

→ 選択制限違反 (隠喩の一つの大きな契機)

<例2> あいつは哲学者だね。

→ 選択制限違反ではない (述語も [+人間]) が、
「あいつ」の指示対象が学者でないなら、やはり一種の
カテゴリー違反

16

直喩と隠喩

■「隠喩」は「直喩」から「直喩標識」を除いたもの?

<例1> 「彼の話は落語だ」

Q. どんな印象?

面白いだけ、真面目じゃない、etc. ネガティブ印象?

<例2> 「奥歯に物が挟まったような物言い」

Q. 「ような」を除いて隠喩にできる?

本当に奥歯に物が挟まったときの言葉??

→ そのままでは比喩にならないものを直喩標識の力が
比喩にしている?

17

換喩とは何か?

■換喩は何のために?

最も顕著な部分に目が行く人間?

(人間の認知プロセス?)

<例1> 「赤シャツは今日も上機嫌だ」

<例2> 「スピード出しすぎて白バイにつかまった」



一種のカテゴリー違反をしながら際立たせる

18

提喩とカテゴリー

■多義を利用した提喩

<例> 「石」の多義性

「石につまづいて転んだ」 ← 比喩でない

「石がほしい」

庭石? 宝石? ← 提喩

「石ができた」

結石 ← 提喩

言語研究法 ('19)

第13回 意味論② 13-4

19

文の意味

■文法的に正しいことと意味的に妥当なことは別
 <例> Colorless green ideas sleep furiously.
 (チョムスキーの文例)

「無色な緑の観念が激烈に眠る」??



「真理条件」(文の意味内容が現実成立するための必要十分条件)的には困難

「比喩」的な文としては解釈可能?

5

20

真理条件意味論 (1)

■文の意味は文の真理条件だという考え方

<例> 2つの文の真理条件はどう異なるか?

a. 「太郎は財布を落としたことに気がついた」

b. 「太郎は財布を落としたと思った」

(指定教材 p.114 【問題1】)

→ 「太郎」が「財布を持って」いたことは、

a, b どちらでも満たすべき前提条件

10

15

21

真理条件意味論 (2)

a. 「太郎は財布を落としたことに気がついた」

b. 「太郎は財布を落としたと思った」

a では、「財布を落とした」ことが真であることが必要であり、その上でそのことに「気がついた」ことが真でなければならない

b では、「財布を落とした」ことが太郎の“考えに浮かんた”ことは真でなければならないが、「財布を落とした」こと自体は真であっても偽であっても可

20

25

30

35